第65期（2026年９月期）

CMC GROUP | 株式会社 シイエム・シイ

株主通信

CMC GROUP VISION

「人とデータの共生で、くらしをもっと楽しく」の実現を目指して

1×1=1∞の価値に



代表取締役社長

佐々幸恭

ささ ゆきやす

<活動ハイライト>

既存事業のQCD向上とデジタル技術活用により、次なる成長基盤の構築を推進

2026年９月期 通期業績

業績について詳しくはこちら

既存事業の強みを活かし、増収増益。QCD向上とデジタル技術活用により、収益性向上を達成

▪ 売上高

製品モデルサイクルの影響に加え、
QCD（品質・コスト・納期）の徹底が寄与

▪ 営業利益

事業変革や従業員の行動変容を促す投資継続も、
デジタル技術を活用したQCDの活動が寄与

▪ 経常利益、当期純利益

主に、為替差益などが影響

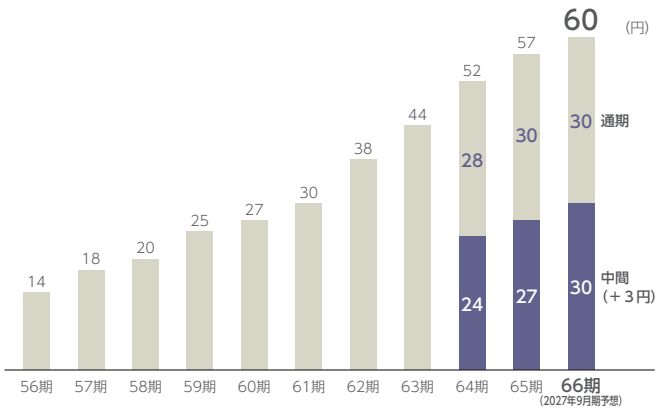
（億円）

連結業績	実績	前期比	来期予想	
売上高	193.3	+5.9%	200	+3.4%
営業利益	30.6	+13.9%	33	+7.5%
経常利益	34.0	+6.3%	35	+2.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	22.4	+4.6%	23	+2.3%

株主還元

連続増配を継続

中間配当を３円増配し、10期連続の増配予想



トピックス

名証IREXPO2026へ出展

名古屋証券取引所プレミア市場
変更上場後では初出展



事業の基盤を固めつつ、
将来の成長に向けた戦略的な取り組みを推進

? 成長につながる事業づくりを、どのように進めてきましたか？

事業戦略｜当社の強みである現場の専門知とデジタル技術を掛け合わせ、自社商材を戦略的に活用

AIを活用した自社製品を相次いで発売

AI議事録・報告書作成ツール「Knowledge Insight」は2025年12月に販売を開始しました。AI動画制作ツール「SymGAI-movie」は2026年8月に、業務改善支援サービス「KAIZEN FARM」は改善専用AI機能と専門人財による伴走支援を強化して全面リニューアルし、2026年10月に販売を開始しました。これらの製品・サービスは、お客さま企業における情報共有や教育・販売促進を支援しています。

KAIZEN FARM

Knowledge Insight

SymGAI

KAIZEN FARM

自社製品の活用を広げ、データを蓄積

情報をヒトとAIが使いやすい形にする「KNOWLEDGE MASTER」を、お客さま企業の業務で継続的に活用し、製品情報のデータを蓄積しています。社員教育や問い合わせ対応などへの活用検討も進んでいます。現在も複数の製品を開発し、成長する事業を育てています。

製品情報を蓄積・利活用

KNOWLEDGE MASTER

お客さま企業の環境でご利用が可能

KNOWLEDGE MASTER LITE

KNOWLEDGE MASTER

? 事業づくりを担う人財を、どう育ててきましたか？

人財育成戦略｜学びを実践につなげ、課題発見から変革の実現まで担う専門人財を養成

経営の視点を養い、デジタル技術を使いこなす環境を整備

AIとの対話でアプリを開発する「バイブコーディング」の技能を高め、仕事の効率と質を向上させる学習環境を整備しました。2026年２月には「トンガルプレナー養成塾」を開講し、経営の視点で新たな事業やサービスを構想。専門知と技能を提案や業務改善に活かす力を養いました。





開発が専門でない社員もアプリをつくり、現場を変革

現場の声を基に、作業時間・費用・稼働状況を見える化する「業務アプリ」を自社で開発・運用しています。社員の「人財活用アプリ」の開発にも取り組みました。こうした実践を通じて、改善策を現場で形にする力を磨き、お客さまの現場変革に伴走できる人財を養成しています。



業務アプリ



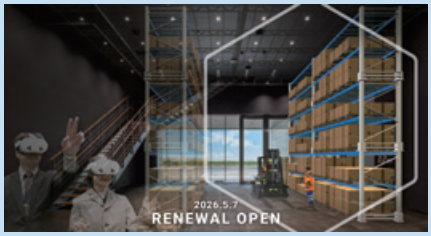
人財活用アプリ

? 事業と人財の力を成長につなげる体制を、どう整えてきましたか？

体制戦略｜既存事業を磨く役割と次世代事業を生む役割を分け、収益力と成長基盤を強化

部門の役割を明確にし、新事業を生む拠点を刷新

既存事業を磨き上げる部門と、次世代事業を生み出す部門の役割を明確にしました。それぞれが役割に集中し、収益拡大と次の成長に向けた土台づくりにつなげました。2026年５月には「トンガルLABO」をリニューアルし、パートナー企業と新サービスに必要な技術の検討を重ねています。



トンガルLABO

AI製品開発力と活用を統括する機能を強め、事業に活用

2026年８月には、AI製品の開発・運営を行う「R-Edge」と資本業務提携し、当社の専門知とAI製品開発力を掛け合わせる体制を強化しました。10月にはグループ横断組織「AI統括」を設置。課題に応じて必要な人財が集まり、AIの安全かつ効果的な活用を進めています。

AI製品の開発・運営

R-Edge との資本業務提携

資本業務提携

AIの安全かつ効果的な活用を推進

AI統括